

【研究ノート】

アイヌ語十勝方言テキスト：クマの追跡を逃れた話

高橋 靖 以

本稿で扱うアイヌ語十勝方言のテキストは、北海道中川郡本別町の故沢井トメノ氏（1906年－2006年）が伝承されていた口頭文芸であり、語り手によれば *tuytak*<sup>1</sup> とよばれるジャンルに属するものである。*tuytak* は散文で語られ、また必ずしも事実に基づく物語とはみなされなないという特徴を有する。すでに切替（1998）によって同じ物語が採録されているが、話の内容にはかなりの差異がみられる<sup>2</sup>。

録音は1999年4月24日沢井氏の御自宅において筆者がおこなった。

凡例

以下の片仮名表記は音声のある程度実際の発音に近く表記したものであり、アルファベットは音素表記である。音素表記には /p, t, k, c, s, h, m, n, r, w, y, i, e, a, o, u/ を用いる。なお声門閉鎖音に関しては、子音と母音の間に現れる場合のみ /ʔ/ を用いて表記した。また言いよどみや言い間違いと判断される形式を（ ）で示し、人称接辞と語幹との境界をハイフン（ - ）で示した。

あらすじ

今まで暮らしていたが、この川筋にはクマが来たことがなかった。ある日、私（ある家の主人）は小鳥や小さいけものを捕まえたいと思い山を歩き回っていた。ところが、今や鳥もいない、けものも見ないので、家へ戻ろうと思いながら帰路についたところ、私の後ろから何か忍んで近づく音を聞いた。今まではクマもいなかった村であるのに何が忍んでくるのであるか、私の後ろから忍びながら下ってくるように思われた。そして、広くてつるに覆われていない場所に出て確かめたところ、本当にクマが私の後ろから忍びながら下ってくる音であった。それで、今までクマも全くいなかったのにどうしてクマがいるのかと思いながら、静かに下っていった。そして、深い小川のほとりに出て前方を見たところ、水に浮き沈みしている流木があった。それで、流木の上へ跳んで対岸に渡ったならばどうにか助かることができるだろうと思いながら下っていった。そして、川が近づいたので、走って行って流木が浮いている時その上へ跳んで、対岸に渡った。ところが、そのクマは、流木が沈んでいる時にその上へ跳んで流されていった。そこで、よかった、助かったのだと思いながら、家の方向へ下っていき家に着いた。そして、今までクマが歩き回る様子も見たことがなかった村に、クマがいて私の後ろから忍んで下って来た。私はそれに気がついたので、流木の上へ跳んで対岸へ渡ったので良かったけれども、そのクマは沈んだ流木の上へ跳んだので流されていった、ということを見ると、よかった、家の主人が無事に家についたのだと、みんなが安心し、それからは何の心配もなくこの村で暮らしているのだ。

## 本文

タネ パクノ オカイアン コロカイ、タアン ペツ オツ タ アナク カムイ エク  
 tane pakno okay-'an korkay, taan pet ot ta anak kamuy ek  
 今まで暮らしていたが、この川にはクマが来たことが  
 エラムスカレ。エラムスカレ アクス、ン、エラムスカレ ワ アン ベ ウナン クス  
 eramuskare. eramuskare akus, (n), eramuskare wa an pe un<sup>3</sup> an kus  
 なかった。なかったところが、なかったので  
 アノカイ アナクネ ピシカン エン ベ パエカイアナヒンネ オシヅパアン。アクス  
 anokay anakne piskan en (pe) payekay<sup>4</sup>-'an ahinne osippa-an. akus  
 私はあたりを歩き回ったあげく戻った。ところが、  
 ネプ、ネ、ネプ カイ ポン チカフ アコイキ ウサ キ、ポン チロンノフ アコイキ  
 (nep, ne), nep kay pon cikap a-koyki usa ki, pon cironnop a-koyki  
 何か小鳥をつかまえるなどし、小さいけものをつかまえ  
 ルスイ クス パエカイアナクス、ワ、タネ チカフ カイ イサム、チロンノフ カイ  
 rusuy kus payekay-'an akusu, (wa), tane cikap kay<sup>5</sup> isam, cironnop kay  
 たいので歩き回っていたところが、今や鳥もいない、けものも  
 ソモ アヌカラ クス、チセ オレン オシヅパアン アリ ヤイヌアン カン  
 somo a-nukar kus, cise or en osippa-an ari yaynu-an kan  
 見ないので家へ戻ろうと思いながら  
 オシヅパアン アクス ネプ カイ、イ、イオシ イクイラ カン エク フム、アヌ。  
 osippa-an akus nep kay, (i), i-osi ikuyra kan ek hum, a-nu.  
 戻ったところが何か、私の後ろから忍んで近づく音を聞いた。  
 カン エク フム、アヌ、クス、タネ パクノ アナク カムイ カ イサマ コタン ネ  
 kan ek hum, a-nu, kus, tane pakno anak kamuy ka isam a kotan ne  
 近づく音を聞いたので、今まではクマもいなかった村である  
 ヒケ、ネプ タブ イクイラ フマナ、イオシ イクイラ カン ラン コトム イラムアン。  
 hike, nep tap ikuyra hum an a, i-osi ikuyra kan ran kotom iramu-an.  
 のに何が忍んでくるのであるか、私の後ろから忍びながら下ってくるように思われた。  
 アヒンネ、ピリ、タネ、セプ ヒ、ワ、プンカラ エイコシテク イサミ オロ アネパ  
 ahinne, (pir), tane, sep hi, wa, punkar eykostek isam i, or an-epa  
 そして、今や広いところからつるがあまりないところに出た  
 アクス ソンノ ネプ コン カムイ イオシ イクイラ カン、ラン フム ネ アワン。  
 akus, sonno nepkon kamuy i-osi ikuyra kan, ran hum ne awan.  
 ところが本当にクマが私の後ろから忍びながら下ってくる音であった。  
 テク、ワ、ネ、タネ パクノ カムイ カイ オアッサマ ヒ ネコナン クシ タブ カムイ  
 (tek), wa, (ne), tane pak kamuy kay oassam a hi<sup>6</sup> nekon an kus tap kamuy  
 それで、今までクマも全くいなかったのにどうしてクマが  
 アン ルアナ アリ フマシ カン、ラッチノ、ホユヅパアン チカナク イノシパ  
 an ru an a ari humas kan, ratcino, hoyuppa-an<sup>7</sup> cikanak i-nospa  
 いるのであるかと思いながら静かに、走ったならば私を追いかける

ナンコロ クス、ラッチノ ラバナヒンネ タネ、ポン、ペツ ポン ヤクカイ、オオ、オオ  
 nankor kus, ratcino rap-an ahinne tane, (pon), pet pon yakkay, oo<sup>8</sup>, oo  
 であろうから、静かに下っていったあげく今や川が小さくても深い、深い  
 ペツ ネ クス、ペツ エハンケ チカナクネ ホユヅ パアナヒンネ、シネ インカラ、  
 pet ne kus, pet ehanke cikanakne hoyuppa-an ahinne, (sine inkar),  
 川であるので、川が近づいたならば走って、前方を  
 シエトケン インカラアナクス、アオスマ ニ、エツク、アオスマ、オロワ エツク カン  
 sietok en inkar-'an akus, awosma<sup>9</sup> ni, etuk<sup>10</sup>, awosma, orowa etuk kan  
 見たところが水に沈んだ木、頭を出し、沈み、それからまた頭を出して  
 イキ ニ アン コロ アン。アクス、クス、ナア ペツ エハンケ チカナクネ ネアン ニ  
 iki ni an kor an. (akus), kus, naa pet ehanke cikanakne nean ni  
 いる木があった。それで、さらに川が近づいたならばその木  
 オレン、テレケアン テク エクスン テレケアン チカナクネ ネコン ポカイ シクヌアン  
 or en, terke-an tek ekusun terke-an cikanakne, nekon pokay siknu-an  
 へ跳んで対岸へ跳んだならばどうにか助かることが  
 エアシカイ ナンコロ アリ ヤイヌアン カン ラバナヒンネ、タネ ペツ エハンケ  
 easkay nankor ari yaynu-an kan rap-an ahinne, tane pet ehanke  
 できるだろうと思いつながら下ったあげく、今や川が近づい  
 テク インカラアナクス ホユヅ パアナヒンネ カシケ エン、アオスマ コロ アン  
 tek inkar-'an a kus hoyuppa-an ahinne kaske en, awosma kor an  
 て見えたので走ってその(木の)上へ、沈みつつある  
 クス ナニ オロワノ ホユヅ パアナ ホユツパアナヒンネ タネ ペツ エハンケ クス、  
 kus nani orowano hoyuppa-an a hoyuppa-an ahinne tane pet ehanke kus,  
 のですぐにそれから走って走って今や川が近づいたので  
 ネアン ニ エタリリ カン イキ ヒ、ヒ タ ネアン エタリリ ニ カシケン  
 nean ni etariri kan iki (hi), hi ta nean etariri ni kasiken  
 その木が頭を上げているときにその頭を上げている木の上へ  
 テレケアン テク エクスン テレケアナクス イイソネカ クシ タ パエアン。アクス  
 terke-an tek ekusun terke-an akus iisoneka kus ta paye-an. akus  
 跳んで対岸へ跳んだところが、幸いにも対岸についた。ところが  
 イキア カムイ アナクネ テレケアン テク エクスン テレケアン チク ニ アオスマ、  
 ikia kamuy anakne, terke-an tek ekusun terke-an cik ni awosma,  
 そのクマは、私が跳んで、私が対岸へ跳んだので木が沈んだ、  
 クス イキア ニ アオスマ カシケ エン イキア カムイ テレケ テク、アモムテ。イヤ  
 kus ikia ni awosma kaske en ikia kamuy terke tek, a-momte. iya  
 それでその木が沈んだ上へそのクマが跳んで流された。いや、  
 イイソネカ イイソネカ、エタヅ シクヌアン ル アン アリ フマシ カン オレ、  
 iisoneka iisoneka, etap siknu-an ru an ari humas kan (ore),  
 よかったよかった、助かったのだと思いつながら

オロワノ チセ コパケン、サバナヒンネ チセ オツ タ サバン。ワ タータアンベ  
 orowano cise kopak en, sap-an ahinne cise ot ta sap-an. wa, tataanpe  
 それから家の方向へ下っていったあげく家についた。そして、これこの  
 ネプ コン タネ パクノ カムイ カラ、パエカイ シリ アヌカラ カ エラムスカレ ア  
 nepkon tane pakno kamuy (kar), payekay sir a-nukar ka eramuskare a  
 様に今までクマが歩き回る様子も見たことがなかった  
 コタン タ、カムイ ウサ アン テク イオ、イオシ イクイラ カン サン。アネラマン  
 kotan ta, kamuy usa an tek (io), i-osi ikuyra kan san. an-eraman  
 村にクマなどがいて私の後ろから忍んで下って来た。私はそれに気がついた  
 クス、ネアン エタリリ、アオスマ ワ エタリリ カン イキ ニ カシケ エン  
 kus, nean etariri, awosma wa etariri kan iki ni kasike en  
 のでその頭を上げ、沈み、頭を上げている木の上へ  
 テレケアン テク、エクスン テレケアナクス イイソネカ アノカイ アナク、テレケアン  
 terke-an tek, ekusun terke-an a kus iisoneka anokay anak, terke-an  
 跳んで対岸へ跳んだので、幸いにも私は跳ん  
 テク ピリカ コロカイ イキア カムイ アナクネ アオスマ ニ カシケ エン テレケ  
 tek pirka korkay ikia kamuy anakne awosma ni kaske en terke  
 で良かったのだけれども、そのクマは沈んだ木の上へ  
 クス、モム マ サン、テク ネコンネ ア、ヤ アリ ヤイヌアン カン オシッパアン  
 kus, mom ma san, tek nekon ne a, ya ari yaynu-an kan osippa-an  
 跳んだので流れていった、それでどうしてかと思いながら戻った  
 コロカイ タアン コタン アナク カムイ エク エラムスカレ コタン ネ、アリ、フマン  
 korkay taan kotan anak kamuy ek eramuskare kotan ne, ari, humas  
 けれどもこの村はクマが来たことがない村であるのと思い  
 カン、チセ オツ タ サバン ワ イキア プ アイェ コロ、イイソネカ  
 kan, cise ot ta sap-an wa ikia p a-ye kor, iisoneka  
 ながら家に下ってそのことを言うと、よかった  
 イイソネカ エタプ チセコロクル ピリカ ワ チセ オロ エパ ハワン テ、  
 iisoneka etap cisekorkur pirka wa cise or epa haw an te<sup>11</sup>,  
 よかった家の主人が無事で家についたのだと  
 オピッタノ ヤエシオロ ウエシオロ イタク ウサ アン カン シリキ アヒンネ、  
 opittano yayesioro<sup>12</sup> uesioro itak usa an kan sirki ahinne,  
 みんなが安心し、お互いに安心することばがある様子であって  
 オロワノ、ネプ シラモペペケレ イサム ノ タアン コタン タ オカイアン ル ネ。  
 orowano, nep siramopepeker isam no taan kotan ta okay-'an ru ne.  
 それから何の心配もなくこの村で暮らしているのだ。

## [注]

- 1 この形式は[tsujtak]に近く発音されることが多く、他の音韻論的解釈（例えば/cuytak）をしうる可能性がある。なお/tuitakの様な解釈は発音からみて適当ではない。
- 2 切替（1998: 1）はこの物語を内容からみて iramante haw 「狩猟の話」というジャンルに属するものと判断している。

- 3 この形式に関しては未詳。なお切替（1996:273）参照。
- 4 この表記は暫定的なものであり、音韻論的には/paekay/の様な解釈が妥当である可能性もある。
- 5 kay と ka（後出）は語形のゆれとみられる。なお、否定表現、不定表現、取り立ての表現において両者共に用いられることを確認している。
- 6 hike 「のに」という形式を意図したものである可能性がある。
- 7 語頭の h が保たれた形。
- 8 丁寧な発音でも oo の様な形。
- 9 この表記は暫定的なものであり、/aosma/の様な解釈が妥当である可能性もある。なお、切替（1998:1）はこの形式を'a'osma と表記している。
- 10 この形式は[etsuk]に近く発音されることが多く、他の解釈（例えば/ecuk/）をしようる可能性がある。
- 11 日本語の形式である可能性がある。
- 12 この表記は暫定的なものであり、/yaesioro/の様な解釈が妥当である可能性もある。

### 謝辞

この物語を話してくださり、また数々の質問に親切にお答えくださった沢井トメノ氏に深く感謝申し上げますと共にご冥福をお祈りします。また貴重なご意見、ご指摘を頂いた切替英雄氏（北海学園大学）及び二名の査読者の方に厚く御礼申し上げます。

### 参考文献

切替英雄

1996 「アイヌ語十勝方言による昔話「島を引いて泳ぐオタスの少年の物語」の辞典と文法(1)」『北海学園大学学園論集』88: 123-286.

1998 *'Iramante haw*.未公開資料.

(たかはし・やすしげ／北海道大学大学院)